

添 付 資 料

本報告書を構成するにあたって、これまでに検討された資料を以下に示す。

- (1) 東環状大橋（仮称）建設事業環境影響検討のあらまし（H15.8、徳島県）
- (2) 汽水域生態系モニタリング手法研究会管理運営業務報告書（H18.3、徳島大学環境防災研究センター）
- (3) 吉野川河口地形変動及び小規模攪乱力解析業務請負報告書（H19.3、国立大学法人 徳島大学）
- (4) H21 環道 徳島県東環状線徳・東吉野 2～北沖洲 4 環境モニタリング調査（142）報告書（H21.12、三洋テクノマリン株式会社）
- (5) H21 環道 徳島県東環状線徳・東吉野 2～北沖洲 4 環境モニタリング調査（140）報告書（H22.8、ニタコンサルタント株式会社）
- (6) H22 環道 徳島県東環状線徳・東吉野 2～北沖洲 4 環境モニタリング調査（159）報告書（H23.7、パシフィックコンサルタンツ株式会社）

- (1) は、建設工事前に検討された吉野川河口部への影響について調査、検討したものである。
- (2) は、環境アドバイザーらによって意見を交わし、汽水域生態系のモニタリング手法のあり方について検討し、これを基本として東環状大橋（仮称）の建設工事に伴うこれまでの調査、検討内容、この先の調査方法や生物指標種等について提言したものである。
- (3) は、吉野川河口部における物理環境特性を解析したものであり、波浪による小規模攪乱力、台風による洪水に伴う地形変動をそれぞれ解析したものである。
- (4) は、平成 15～19 年度の環境モニタリング調査の結果を用いて、指標種の生物生息モデルを検討したものである。用いたモデルは、選好度、決定木、ロジスティック回帰である。
- (5) は、平成 15～19 年度及び 15～20 年度の環境モニタリング調査の結果を用いて、指標種の生物生息モデルを検討したものである。用いたモデルは、HSI 及び重み付け HSI モデルである。
- (6)、(4) の内容のうち、ロジスティック回帰を見直したものであり、本報告書をもって指標種のモデル（選好度）を決定付けたものである。他に、ヨシの分布のモデル化、上位捕食者とオオヨシキリの営巣環境についてロジスティック回帰分析によって有用な要因を検討している。